



## ▶ 韓国姉妹校生徒の受け入れホストファミリーを募集いたします！（1学年保護者対象）

今年度も本校の姉妹校である韓国「ミチュホル外国語高校」より生徒が10月に来日し、交流活動を行います。つきましては、ホストファミリーとして受け入れていただけのご家庭を募集いたします。昨年も10家族の方々に御協力をいただき、充実した交流活動を行うことができました。現在でも交流が続いている方も多ようです。すでに御案内を配布いたしましたが、御検討いただければと思います。また、平成31年3月、本校1学年生徒（10名前後の予定）がミチュホル外国語高等学校への短期留学を実施する予定です。その際、御希望があればホストファミリーを引き受けてくださった御家庭の生徒を優先的に派遣します。先方でもホストファミリー宅に宿泊します。

なお、「韓国姉妹校交流海外派遣」に参加した場合でも、2学年時の「SSH シリコンバレー・ハワイ島研修」、「G10 ボストン・ニューヨーク研修」、「ニュージーランド姉妹校交流海外派遣」に応募することが可能です。

### 受け入れ日程

平成30年10月13日(土)から10月16日(火)までの3泊4日

受け入れに御協力いただける場合には、9月6日(木)までに、「ホストファミリー承諾書」(別紙)を担任へ御提出くださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせは下記までお願いいたします。

日比谷高等学校グローバル事業部

## ▶ 7月2日(月)「税制について考える」講演会 報告

今年も昨年に引き続き東京税理士会麹町支部主催の税金に関する講演会が行われました。昨年は「ドギー税の導入」というテーマで、ペット所有者たちに対する課税についての議論を通して、税金というものの役割について改めて考える機会をもちました。昨年は「税制に関しての理解の希薄さが、納税に対する意識を弱めているのではないか」という湊昭子先生（東京税理士会麹町支部所属）のお話が印象的でした。今年も同先生より、「モア・グリーン税の導入」といった国民全体にかかわる利益に対する課税についての議論を行いました。

数人でグループを作り、グループリーダーを決め、ディスカッションを行いながらの議論を深めました。この種のスタイルは、現在の日比谷高校ではさまざまな教科で行われているため、生徒たちも活発に議論する習慣が身につけている印象がありました。

グループ毎に、想定する納税者を決めて議論を進められました。例えば、若年者あるいは高齢者層で収入の多い者、少ない者などです。環境保護に資する納税については、受益の程度は誰にとっても同じであるので、課税は一律に行われることも考えられるが、それぞれの立場からさまざまな意見が出されました。高齢者層からは、環境の保全や整備は未来に対しての投資でもあるので、世代間で均一なことについては議論が必要だという見方もあり、また、収入に応じての負担などについても意見が活発に出されました。

こういった議論をとおして、今回は「累進課税」についての御講義を丁寧いただいた。累進課税とは、累進税率によって税金を課することで所得が高ければ高いほど税率が引き上がることになるものだ

が、「公平性」という観点からさまざまな見方ができるとの御教示をいただいた。高校生にとっては、やや日常性のないテーマであったかもしれないが、社会のありようについて考察する貴重な機会になってようである。

### ◆ 7月3日（火）内閣官房主催 「国家公務員の出身高等学校への派遣」 報告

内閣人事局主催による講演会が行われました。平成 20 年度に卒業された多田初様に講師として来ていただきました。警察庁の警視という激務に勤しまれている同氏の貴重な時間を後輩の日比谷生のために割いていただきました。今回初めて行われた国家公務員の方からお話を聞く講演会ですが、男女とも参加生徒が多く、3年生も積極的に参加していたことが印象的でした。将来のキャリア形成について、今の段階からビジョンをもっておくことは、進学においても大きなパワーになります。こういった機会をこれからも活用してもらいたいと思います。

多田氏の自己紹介では、在学中はあまり学業優良ではなかったと謙遜されていましたが、高校2年生の終わりからは自習室を活用し、先生方に添削等をしてもらいながら勉学に励み、第一志望である東京大学に進路実現を果たしています。大学入学後も、勉学とスポーツに励み、現在の国家公務員への道を切り開いたそうです。

日比谷生からたくさんの質問がされましたが、1つ1つ丁寧に答えてくださいました。国家公務員としてやりがいを感じることに、については、自ら立案した政策等が世の中に反映されていくことであり、責任感と同時に達成感も感じるそうです。辛い時はどんな時ですか、という問いについては、なかなか詳しく話せないことが多いようですが、国会等での仕事においては苦勞することも多々あるそうです。

とても謙虚で前向きな氏の話は、国家公務員としての生き方を誇りに感じていることが伝わってきました。これからの自らのキャリア形成についても、決して内向きなものにならず、チャレンジ精神をもって考えているとお話を聞き、生徒も勇気づけられたことと思います。講演会が終わっても、個人的な質問に最後まで丁寧に答えてくださいました。